

気をつける必要の有無

1. イラガの繭(まゆ)

落葉に季節になって目立ち始めるのは、イラガの繭です。カキの葉裏によく見られ、うっかり触ってひどい目に遭う幼虫は、9月になると繭を作りその中で越冬します。多くは枝の分れた部分に作ることが多いのですが、幹に作るものもあります。ケヤキにも多く、いろいろな植物を食べますので、繭のある樹種を調べるのも冬の作業としてうってつけです。



繭の中のイラガの幼虫

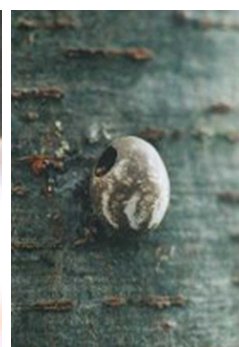
植栽される植物に多く見られます。幼虫にはたくさんの肉質突起があり、ここに毒をもつ棘があります。しかし、繭の中で越冬する幼虫は突起がなくなり、棘の毒もありません。冬の魚釣りの餌として使う時は安全です。冬を越して蛹(さなぎ)となり、6月には羽化して成虫となりますが、かたい繭には上部には最初から切り目が入っていて簡単に蓋が開くようになっています。このため羽化後の繭は上部に穴があいていますから、俗に「スズメノショウベンタゴ」と呼ばれます。また、横の上方に穴が開いている繭がありますが、これはイラガの幼虫に寄生するイラガセイボウというハチが脱出した痕です。いずれにしても穴が開いている繭は前年以前のもので



イラガの繭



イラガの脱出孔



イラガセイボウの脱出孔

2. ヒヨドリジョウゴとマルバナヤマホロシ



ヒヨドリジョウゴ

霜が降りるようになると、ミニトマトをさらに小さくしたおいしいような実が目立ちます。赤い透明感のある実は口に入れてくくなる感じですが、ソラニンを含むため食べてはいけません。実の外見でわかるようにナスの仲間です。ナス科は強い毒を持つグループで、危険なものが一杯です。ジャガイモやトマトも同じ科ですが毒性を少なくするように品種改良をしたものです。



マルバナヤマホロシ未熟果

鳥のヒヨドリと上戸(酒がよく飲める人)が名称についていますが、ヒヨドリはあまり好きではなく、酔いもしません。